



SESERAGI—MISHIMA
ROTARY CLUB
WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2021～2022年度 RI会長 シェカール・メータ
RIテーマ 奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

クラブテーマ「会員の健康と地域リーダーの育成、
そしてロータリーの基本、規律を大切に」

会長 米山晴敏 幹事 仲原実圭

第1492回 例会
2021.12.17(金)晴

司会：原兄多君

事務所 三島市泉町9-8
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.sezeragi-mishima-rc.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 米山晴敏君



皆さん、今晩は。

ロータリーの、年末最後の例会は家族例会です。

家族の皆さんにロータリアンが感謝の気持ちを表す日でもあります。右側のスライドを見ながら話を聞いてください。

皆さんの前や横にいるロータリアンは一年間、ひとり親世帯にお弁当を、国に帰れないカンボジアの留学生に生活物資を、生活困窮者に食料支援を行いました。

カンボジアの井戸のない部落に井戸の設置をしました。医療従事者に花束を贈るために、種や球根を植えました。幼稚園の近くの休耕地にレンゲの種を植えました。春に喜ぶ、幼稚園児の姿を見れると信じています。身障者の支援も始まりました。ポリオ撲滅の募金活動など、たくさんの奉仕活動を一年間やってきました。

関係された人達や団体から、感謝の言葉や、手紙を頂きました。それはロータリアンの家族や会社の従業員がロータリアンを助けてくれたこそ、もらえた言葉であり、手紙であります。

ロータリアンのお父さんやお母さんが、おじいちゃんやおばあちゃんが奉仕活動している姿を、家族に見て欲しいです。

明後日はSBSマイホームセンターに行ってください。ロータリー奉仕デー活動でおたまちゃん食堂と三島RC・三島西RC・伊豆中央RC・長泉RCの5ロータリークラブの協賛と4市町の後援でイベントが行われます。そのイベントを主軸でやっているのがせせらぎ三島RCのロータリアンです。

ロータリアンが集めた食材や品物が山ほど、集まります！集めた食材などは、食料の少ない家庭に年末、年始

用に届けられます。

明日の静岡新聞にテーブルにある、パンフレットが掲載されます。4市町の幼稚園にパンフを届けました。ボイスキューでも放送されます。

2000人が集まる予定です、食料も集まります。是非、皆さんも現地に行って、確認してください。

沢山の食料や食材が集まっていたら、ここにいる、皆さんの家族のロータリアンが頑張った成果です。家に帰ってから、いつもより、チョッピリ、優しく、労ってください。

先程から一年間と話しています、事業の半分は前年度に加藤会長、服部幹事、そして前年度の各委員長のお力が、半分以上である事をお伝えしておきます。

家族の皆さん、一年間、ロータリアンを陰で支えて頂き、ありがとうございました。来年もよろしくお願ひします。

今日は家族の皆さんが主役です、時間の許す限り、楽しんでください。



出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	29/31	93.55%	31/31	100%
今回	27/30	90.00%	会員総数	32名

欠席者 あなたが見えなくて残念でした。

石井(和)君、小島君、山口(雅)君

(*出席免除会員の欠席者 片野君、山本君)

クリスマス家族例会



ROTARY NEWS

ロータリアンが創設にかかわった9つの人道支援団体

記事： Vanessa Glavinskas, Gundula Miethke, Aurea Dos Santos,
Angela Stavrogiannopoulos, Reiko Tokiyama, Claudia Urbano, Kim Widlicki

クリスマスシーズンや正月を控えた年末には、日本でも助けあいの運動や募金が多く行われます。宗教的な理由であれ、倫理的な理由であれ、「他者を助ける」という行為はどの社会でも重んじられています。

「社会に恩返しする」という考え方は、ロータリー精神の中核でもあります。多くのロータリアンにとって、それはロータリークラブでの奉仕活動や寄付にとどまるものではありません。歴史的にも現在においても、人びとを支援する多くの取り組みでロータリアンが重要な役割を担っています。医療ミッション、災害救援、気候変動との闘い、さらには国連創設への関与にいたるまで、その貢献は多岐にわたります。この記事では、さまざまな分野におけるロータリーのプロジェクトやロータリー会員の活動から生まれた世界各地の団体をご紹介します。これらの団体は、世界的・地域的に名が知られていますが、そのルーツがロータリーにあることを知る人は多くありません。

英国：ShelterBox（シェルターボックス）

主な活動分野：災害救援

昨年に創立20周年を迎えたシェルターボックスは、Helston-Lizardロータリークラブ（英国）のプロジェクトとして始まりました。当初の目標は、被災者に必要物資を届け、避難や生活の立て直しを支援することでした。国際的に知られる災害救援団体となった現在までに、世界で170万人を支援し、緊急シェルターと生活必需品だけでなく、長期の復興プロセスにおいて家族を支えるために必要とされる研修も提供しています。

フランス：Opticiens Lunetiers sans frontières（国境のない眼鏡技師団）

主な活動分野：疾病との闘い

1991年、ロータリー会員である眼鏡技師、クリスチアン・スピラさんとジャンルイ・ランデュさんは、ランデュさんの娘が人道的活動を行っているカメルーンを訪れました。滞在中に二人は、現地での眼鏡技師の不足により、視覚障がいと診断された患者たちがフォローアップの治療を受けていないことに気づきました。フランスに帰国した二人は、所属するPerpignanロータリークラブの助けを借りて、Opticiens Lunetiers Sans Frontières（国境のない眼鏡技師団）というNGOを立ち上げました。

ボリビア：Cerniquem（子どものやけどリハビリセンター）

主な活動分野：疾病の予防／母子の健康

米国：Citizen's Climate Lobby（CCL）

主な活動分野：環境

オーストラリア：Police Citizens Youth Club

主な活動分野：教育／地域開発

イタリア：Vision+

主な活動分野：疾病との闘い

日本：国際平和と開発機構（IPSO）

主な活動分野：平和の促進

元ロータリー米山記念奨学生、ジャンルカ・ボナンノさんは、国際開発の分野で二つの博士号を持ち（日本と英国の大学）、世界銀行やアジア開発銀行といった有名な国際機関で働いた経験もあります。しかし、奨学金での学業を終えたボナンノさんは、教授として京都に残り、人道的プロジェクトでロータリアンと協力していくことを決意しました。この協力を可能にするため、ボナンノさんとロータリー第2650地区（日本）のロータリアンが、NGO「国際平和と開発機構」（International Peace and Sustainability Organization, IPSO）を設立。同団体が掲げる目標は、学問的研究と現場での施策との間に存在する乖離をなくし、両者をつなげることです。

ブラジル：Espro（就職のための社会教育）

主な活動分野：教育、地域経済の発展

オーストリア：SOS Children's Village（SOS子どもの村）

主な活動分野：教育、子どもへの支援

1937年、警察総監でロータリー会員であったウィリアム・ジョン・マッケイさんは、路上ではなく安全で前向きな環境を若者に与えることを目的に、Sydneyロータリークラブを通じて、市民とのパートナーシップ「Police Citizens Youth Club（PCYC）」を立ち上げました。長年にわたって同団体は発展し、ニュー・サウスウェールズ全域の65以上のクラブと180人の警察官がそのプログラムにかかわっています。